

平成 29 年度第 2 回長崎市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 平成 30 年 3 月 20 日（火）15 時 30 分～16 時 55 分
- 2 場 所 第二応接室（市役所本館 3 階）
- 3 出席者 **【市長】**
田上市長
【教育委員会】
馬場教育長、坂本委員、小原委員、吉松委員、野本委員
- 4 事務局 **【市長部局】**
企画財政部政策監兼都市経営室長、企画財政部政策監、
同室主幹、同室係長、
原爆被爆対策部被爆継承課長、同課平和学習係長
商工部次長兼産業雇用政策課長、同課産業雇用企画係長
【教育委員会事務局】
教育総務部長、同部次長兼総務課長、同課総務係長、
学校教育部長、同部学校教育課長、同課参事兼生徒指導係長、
同課主査、同課主査
- 5 次 第
(1) 開会
(2) 内容
①報告事項 平和教育再編成について
②意見交換事項 キャリア教育について
③その他
(3) 閉会

6 議 事 以下のとおり

事務局 (市長部局)	【15：30 開会】 ただいまから、平成 29 年度第 2 回長崎市総合教育会議を開催いたします。お手元に配付しております次第に沿って、市長より進めさせていただきます。よろしくお願ひします。
---------------	---

市 長	<p>今年度最後の総合教育会議ということで、よろしくお願ひいたします。</p> <p>早速ですが、次第の2(1)報告事項からいきたいと思います。平和教育再編成について、事務局から説明をお願いします。</p>
事 務 局 (教育委員会)	<p>平成29年12月27日に開催されました「総合教育会議」では、「新しい平和教育の方向性」について、委員のみなさまからさまざまなご意見をいただき、今回、反映させたものがございますのでご報告させていただきます。</p> <p>まず、資料1の表面ですが、委員から提案をいただきました「連想法」を取り入れた資料です。</p> <p>「連想法」という手法について、あるキーワードに対して子どもたちがいろんなことを言う中で、認識を深めていったり、お互いの意見を言ったりするような、そこから授業の展開方法がありますというご提案でした。このことについて、平和教育の教師用の手引書の中にページを付け加えさせていただきます。</p> <p>小学校で実施する「対話型授業」の一部です。授業では「今、日本は平和だろうか」ということをテーマに児童が自分の考えを述べ合い、お互いの意見を聴き合うような授業を想定しております。</p> <p>その導入場面において、「連想法」の手法を取り入れ「事前アンケート」という形で「平和」というキーワードに対して、子どもたちが「どういった言葉を想像するか、連想するか」また「どういった思いを持っているのか」を引き出し、主発問である「今、日本は平和だろうか？」というテーマにつなげていくことを想定しております。これにより、「平和」を自分事として考えようとする態度や気持ちを促すことを意図しております。今回、平和教育手引書教師用に掲載したいと考えております。</p> <p>次に裏面をご覧ください。これは2点目に意見として出されました原爆被爆からの「復興」をテーマに考えるような取組みがあつたらいいのではないかとということで、多くの委員から、平和教育が「原爆」、「悲惨なこと」というネガティブなイメージだけで捉えるのではなく、もっと明るく、復興するエネルギーに焦点を当ててはどうかというご指摘をいただいたところです。復興していくそのパワーを、長崎人として誇りを持って、長崎の人間として今後どう貢献していくのかなど、平和を多面的・多角的に考えることを意図してこのようなページを考えております。これは、中学生版「平和ナガサキ」の26、27ページに掲載する予定です。</p> <p>平成30年度から実施予定の新しい平和教育では、「他者の意見を尊重しながら自分の言葉で平和を語り、行動できる」児童生徒の育成を図ってい</p>

	<p>くというねらいに基づいて、現在、平和ナガサキについては教育委員のみなさまに最終的なご承認をいただき、来年度、実際に活用しながら授業を行っていく予定です。報告は以上です。</p>
市 長	<p>今、報告がありましたけれども、何かご意見があればお願いします。</p>
市 長	<p>今の裏面の説明で右下に「あなたが思う長崎の魅力」の話がありますが、これはどう説明するのですか。</p>
事 務 局 (教育委員会)	<p>未来を考える時に、長崎を思うようないわゆる郷土愛というのも原点になるのではないかということで、今のこの長崎の魅力をたくさん言うことでそれを守っていききたいとか、もっとそれを発展させていききたいとかそういうことも平和教育には大事な視点ではないかということで、入れさせていただいております。長崎LOVERSもそこに入っております。</p>
市 長	<p>みなさん何かご意見ありませんか。</p>
教 育 長	<p>できれば、新学期に実際に活用している授業などを見る機会をつくっていききたいと思います。</p>
市 長	<p>なぜ、平和ナガサキに長崎LOVERSが入っているのか意味がわからなかった。</p>
事 務 局 (教育委員会)	<p>今回、原爆被爆対策部が作成している資料の中には長崎LOVERSが入っておりますが、長崎LOVERSに関係なくても長崎を思う気持ちというのが、未来の平和につながっていくのではないかという意図で、この設問になっています。</p>
教 育 長	<p>これは原爆被爆対策部が作った資料の中に入ってるのですか。その意図を教えてください。</p>
事 務 局 (市長部局)	<p>原爆被爆対策部では、被爆の継承と平和の発信の2本立てで、今の子どもたちに被爆の事を知ってもらい、伝えてもらうということでやってきました。今の社会の状況などでいうと、子どもたちが社会の中でどう渡り合っていくのかという部分については、自分のこととしてものを考えて、そ</p>

	<p>れを人に伝えていくことが大事だと考えています。相手との共通点を導き出したり、また、相違点を擦り合わせたりしていく中で、やっぱり根幹にあるのは自分のまちをどう思っているのかという部分があるので、その基礎固めと言いますか、自分たちのことを再度認識していただく、自分たちは何を根幹をもって将来進んでいくのかということで、自分たちのまちのことを考えてみようという点で長崎LOVERSを追加してみたところ です。そういう意図でございます。</p>
市 長	<p>そういう意図が実際に反映される中で伝わるような位置付け、やってる子どもたちも、それから、教えようとしている先生たちもわかるような流れになっていけばいいんですけど。ここだけ見てるとわからないのでわかるようにしてほしい。</p>
委 員	<p>指摘されてそうだなと思ったんですけども、「思う」のところを「伝えたい」にしたらどうでしょう。「伝える」というと、一つ空間的には観光者とか他県の人とか外へ伝えたい。時間的には後輩にどんどん伝えていく。復興や平和などの関わりの中で、「伝えたい」にしたらもっと取組みができるのではないのかなと思いました。</p>
市 長	<p>平和のためには、いろんな国の人たちと交流するということはすごく大事なことで、交流する時に自分のまちや自分が生まれた土地のこと、文化のことを知っているというのはすごく大事。交流して初めて「知らない」ということに気づくんですけども。</p>
委 員	<p>高校生などが国連に対して伝えていきますよね。</p>
市 長	<p>その辺の意味合いとかがつながりがわかるように。</p>
教 育 長	<p>そういう思いを手引書に。これを基に手引書を作るんですよね。</p>
事 務 局 (教育委員会)	<p>はい。手引書の方にそこを意識した展開で記載させていただきたいと思 います。</p>
市 長	<p>他にはないでしょうか。 では、そういう点を付け加える形で「平和教育手引書」と「平和ナガサ キ」について、発行に向けて作業を進めていくということで、実際に授業</p>

<p>市長</p>	<p>で活用する場面については、先ほど教育長からも話があったように見に行ったり、検証も。またそこで意見交換をしたいと思えますけどそういうことでよろしいでしょうか。</p> <p>他にこの件について何か。よろしいですか。</p> <p>では、今日のメインのテーマになります。</p> <p>(2) 意見交換事項に移りたいと思えます。「キャリア教育について」です。</p> <p>前回の総合教育会議の中で、委員から「キャリア教育」をテーマにしてはどうかとのご提案をいただき、その中で「長崎に根付いてほしい意味でのキャリア教育」というお話がありました。</p> <p>昨年度策定した教育大綱の中には、「長崎の未来をつくるひとづくり」という基本理念が示されています。</p> <p>「長崎の未来をつくるひと」を長崎のまち全体で育てるためには何が大事なのかを今日は意見交換をさせていただきたいと思えます。</p>
<p>事務局 (市長部局)</p>	<p>まず、教育委員会の取組みを少しご説明させていただければと思えます。</p>
<p>市長</p>	<p>では、教育委員会から説明をお願いします。</p>
<p>事務局 (教育委員会)</p>	<p>教育委員会として、平成 29 年度から「キャリア教育」の授業を新たに始めましたので、そのことについてご説明させていただきます。</p> <p>資料の 2 ページをお開きください。そこに示してありますとおり、これまで学校では、それぞれの小中学校で子どもの発達段階に応じたキャリア教育を実施してきております。</p> <p>具体的には、小学校では身近な地域の学習でいろいろな仕事について調べたり、あるいは、社会科見学を通して実際の仕事の現場について学んだりしています。</p> <p>また、ほとんどの中学校では、学年ごとに 1 年生で職業調べ、2 年生で職場体験学習、3 年生で進路指導など、学年に応じた取組みを行っています。しかしながら、各学校に内容等取組みを任せただけもあり、1 点目に四角の中にもありますとおり、キャリア教育＝進路や職業についての教育という狭義のとらえ方であるとか、あるいは、キャリア教育とは中学校だけで行うものであるといった小学校側からの見解等も課題としてあげられています。</p> <p>そのような中、資料 3 ページにありますように、今年度から教育委員会</p>

としては、第四次総合計画でめざす姿としております「将来の夢や希望を自らの言葉で語り、その実現に向けて努力する長崎っ子の育成」という目標のもと、将来、就職し、経済的に自立することである、「職業的自立」や社会の一員として自立することである「社会的自立」に向け、長崎市全体でキャリア教育を推進することとしました。

「職業的自立」と「社会的自立」の2つに対する子どもたちの関心・意欲を高めるには、それぞれそこに示してあるものを通してこそ可能であると考えております。

この図にありますが、直接的職業に関する資質、能力である職業的な自立に関するものを図の左側の4つの視点で、またその基本となる資質・能力である社会的自立に関するものとして、図の右側の4つの視点で示しております。

そして、このような視点を具現化、事業化したものにつきまして、次の4ページの方に事業として掲載しております。

図の右側の社会的自立に関するものとして、そこに示しております4つの事業をこれまでもやっておりますが、特に法教育等の視点を加えているところです。

そして、今年度は特に左側の職業的自立に関するものとして、社会人による講話の充実を図っております。

具体的には、各学校に任せていた人材リストを教育委員会で一元化し、どの学校も使用できるようにするとともに、関係団体とも連携して新たな人材リストの開発を行ったところです。

また、子どもたちが自分たちのふるさとの理解と愛情を持つことが最も大事だということで、原点としては、ふるさとを愛する心の醸成もキャリア教育の根底におきたいということで、そういった事業を実施しているところでございます。

次に、5ページをご覧ください。先ほど説明しました職業講話ですが、これまで、どちらかといえば学校の職員の個人的なつながりや、あるいは保護者からの紹介などで、あまり系統性を考えずに依頼することが多かったことが実情です。そこで、この社会人による講話を小学校段階でも広めるとともに、学校単独では呼べないような人材のリストを作りまして、学校のニーズに応じて派遣するというので、拡充を図っていかうと考えております。下にあります元プロ野球選手については、このリストを活用し福田小学校で実践されたものでございます。

6ページをご覧ください。現在の進捗状況ですが、各学校で自校で招聘した社会人を推薦してもらった形で登録している人材や企業、団体が計29、

	<p>そして、青年会議所へ協力を依頼し、賛同を得た人材や団体等の数が計 14 となっております。</p> <p>中には、芸能関係や法律等の専門家、大きな企業など、これまで学校独自ではなかなか招聘することが難しかったルートも発掘され、学校によってはそういう人材の活用を実際に行って、これまで以上の成果が出たという報告も受けているところです。</p> <p>7 ページをご覧ください。現在、その一つとして青年会議所の方との連携を進めているところですが、具体的な例として、2 月 16 日に大浦小学校で青年会議所の方を講師とした「おもてなし出前講座」を実施しました。</p> <p>これは長崎都市経営戦略推進会議、長崎サミットと連携した長崎総おもてなし運動の一環としての取組みでもあり、今回はじめて長崎市の学校で実施しました。</p> <p>当日は青年会議所から 16 名の方に来ていただき、5 年生を対象に授業を実施しました。もともと大浦小学校では、学校独自の取組みとして「キッズさるく」という観光案内をする取組みをしていたところですが、この実践によって自分たちが知らない長崎の素晴らしさを改めて知ることができ、おもてなしの気持ちとともに観光地としての長崎の良さに改めて触れる機会となったようです。</p> <p>今後も、青年会議所だけではなく、さらに長崎を支える産業界の方々のご協力を得ながらリスト等の開発も進めていこうと考えています。</p> <p>長崎の未来をつくる人づくりのためのキャリア教育という視点で新たなご提言をいただければと考えております。よろしく願いいたします。</p>
市長	事務局から他に説明はありませんか。
事務局 (市長部局)	商工部からも来ていただき、若年者雇用に向けたの取組みについて関連ということで資料を用意していただいています。
市長	商工部から説明をお願いします。
事務局 (市長部局)	<p>今年 1 月の総務省の発表で転出超過ということで、長崎市が北九州市、堺市に次いでワースト 3 位になっています。今年度までも若年者の定着、就職についての活動はしているんですが、来年度はもっと一層強化をしていくというところで今考えています。</p> <p>それでは、資料 1 ページを。こちらは高校生の就職状況を掲載しています。上の方のグラフは県内全体で、平均で 53.4% といった就職率になっ</p>

ています。また、真ん中の方はハローワーク長崎管内で、長崎市、長与町、時津町を含めたものですが、こちらは61.7%になっています。それから一番下の円グラフですが、これは長崎市内だけの高卒者の就職先の状況で、県内就職は72.5%となっています。

これを見れば、県内の中では長崎市の学生については、県内就職が高い割合になっていますが、県全体では低い状態。離島や島原半島等もありますのでそういうところでもかなり低くなっている状況です。

2ページをご覧ください。こちらは大学生の就職の状況です。上のグラフで真ん中ですが、県内の大学では39.2%です。平成27年が41.0%で、この41.0%を10%アップしようといったところで、今、地方創生の中で目標値を立てている数値でございます。

近年の景気回復と人手不足ということで、かなり首都圏や福岡都市圏の企業の採用意欲がかなり強く、現在下がりつつあるという状況でございます。

下の方ですが、市内にある大学のみの卒業生の就職状況です。2,129人のうち県内就職は971人45.6%です。それから、3ページは現在の地元就職に向けての活動を一覧表にしたものです。

一番上の方で「方向性」それから、高校、大学、大学は県内、県外の大学、その他として新卒者以外の対応を記載しています。左の方ですが、「情報発信」、「受け皿確保」、「採用活動支援」、「雇用環境向上」と分けています。まず、情報発信ですが、国・県・市・それぞれいろんな取組みをしております。その中でも四角囲みの二重囲みのところが、今、なかなか対応できていないところです。「保護者向けの地元企業の情報発信」、また「長崎で暮らす魅力の発信」、「福岡都市圏への情報発信」こちらはかなり多くの方が福岡都市圏へ出て行って、またUターンの一番多いところでございます。

それから、一番下の雇用環境の向上の四角囲みのところです。「キャリアアップの過程・人材育成方針の明確化」このところはなかなか、企業の方から情報発信ができていないというところです。また、「労働条件の改善（給与、労働時間・休日・福利厚生など）」こちらでも向上する必要があるというところです。

また、「経済成長戦略の推進」ということで、長崎市の方では基幹製造業である造船造機、食品加工業、それから観光関連産業この3つを力を入れていくと。外貨を稼ぐものなので、そういうところでひとつでもいい企業を創出するという目標を立てて、今実施しているところでございます。

それから4ページですが、こちらは市内高校・大学へのヒアリングの結果です。上の方から先ほどのカテゴリーの「情報発信」「受け皿確保」「採用活動」「雇用環境」で分けています。中でも若年者が地元企業を知らないことで県外に出ているという状況です。それから、今、現在お聞きしている中では、保護者の影響力がかなり大きくて、そちらの方に働きかけるべきだということも出てきています。また、リクルーターの不在ということですが、先輩が出身校に出向いて企業の説明をすることで、一人でも採用していないとなかなか採用につながらないということもございます。

あと、福岡都市圏の情報発信不足といったところです。そこで、ターゲットに応じたきめ細やかな情報発信を実施することにしております。

また、イですが、雇用の受け皿ということで、若者に魅力的な企業誘致をしようというところや、創業支援、新しい産業の創出というところにも注目しています。

また、地元企業の消極的な採用活動ですが、地元企業が大学・高校などになかなか学校訪問をしていない。特に福岡都市圏の企業は精力的に学校訪問をしているというところですが、地元の企業はなかなかそこができていない。

また、合同企業面談会でアピールが弱い、それから求人票を出すタイミングが遅いというところがありました。それで、企業の採用活動を支援することにしています。

最後に、こちらもずっと言われていることで、雇用環境の向上についてはかなり時間がかかる場所ですが、こちらも支援をしていきたいと考えています。

それでは、5ページをご覧ください。来年度実施する事業を記載しています。左の方の短期は1, 2年で、来年、再来年で集中的にやっていく部分です。中・長期については、3年から5年ぐらいかけてやりたいと思っています。先ほど言ったように、情報発信、採用活動支援、雇用環境の向上について、それぞれ取り組みたいと思っています。

それから、6ページですが、ただ今情報発信をしている番組がございます。「長崎キラリカンパニー」という番組を制作して、ケーブルテレビのなんでんカフェの中で今放送しています。そのほか、ユーチューブの中でも視聴できるようにしています。また、市内の全中学校にDVDを配布したり、図書館にも設置をしています。これまで34社について情報を発信しています。

それから7ページをご覧ください。UIJターンの就職促進の取組状況です。平成29年については下の方に148社からの回答を掲載していま

<p>市 長</p>	<p>す。新卒採用が 758 人でうち地元就職者が 504 人 U I J ターンが 254 人となっています。その中でも U ターンが 86 人、 I J ターンが 168 人。下の方ですが、 U ターンの中でも誘致企業が 90 人を採用しているということで実績が出ております。</p> <p>また、 8 ページですが、福岡都市圏の方が 91 人と大変多くの方が U I J ターンをしているという実績がございます。</p> <p>それから、 9 ページは U I J ターン者の職業の内訳を記載していますのでご参照ください。</p> <p>それから、 10 ページは長崎工業会のバスツアーです。長崎市も支援をしている長崎工業会という団体が、長崎工業高校の生徒や保護者の方等を対象にバスツアーで地元企業を回って、その魅力を伝えるという事業を行っています。下に工業高校の県内就職率を記載していますが、平成 27 年 3 月に 33% だったのが、今年度は 54% に上がったという実績もございません。下段の方には商業高校の実績を記載していますのでご参照ください。</p> <p>それから、 11 ページですが、産学官、経済界と連携して、今現在、インターンシップに取り組んでいます。約 2 週間から 1 か月の受け入れを行っているところです。長崎市役所も受け入れをしており、県内最大の受け入れ機関となっています。数値については資料をご参照ください。</p> <p>それから、 14 ページは、長崎大学が地方創生事業 C O C + 事業として取り組んでいる取組みを参考として添付しています。 2 の (1) は、基幹製造業の見学会、それから、 15 ページの (2) は、学生と企業との交流会の実施、 (3) は、長崎地域学の開講ということで、長崎の魅力を発信する講座を行っています。 17 ページにはキラリカンパニーで紹介した企業の一覧を記載していますのでご参照ください。説明は以上です。</p> <p>高校生、大学生が県外に出ていってしまうという現状があって、そのなかで市内にいい企業があったとしても、そういう企業のことを若い人が知らないという側面があって、それは、そういう場がないということでもあるし、企業の発信力や、アプローチの仕方が弱いといった面でもあったり、実際に、雇用環境が福利厚生を含めて、福岡や東京の会社に比べて弱いといった面であったり、そういういろんな状況がある中で、何らかサポートすることで少しでも地元就職する人を増やせないかという取組みが企業と行政と大学、高校も一緒になって取り組んでいるという状況の説明でありました。</p> <p>では、資料の説明なども含めて、自由な意見交換にしたいと思います。</p>
------------	--

委員	<p>今、高校・大学への取組みのご説明がありましたけれども、早期のキャリア教育によって、地元に対する愛着ですとか、地元に残りたいという意識を育てていきたいという思いがあつての取組みだと思うんですが、実は、昨年8月3日から4日にかけて宮崎で九州地区の市町村教育委員会研修大会がございまして、その時、メインになりましたのが産官学の連携によるキャリア教育の推進でした。サブテーマが教育委員会の関係というよりどちらかというと経済界のパネルディスカッション的な感じだったんですが、「産業界が果たすべき役割と責任」で、トータルコーディネーターを宮崎県キャリア教育支援センターの水永所長が、パネリストに日向市の商工会議所専務理事、商工観光部の部長、教育界からは教育委員会の教育長、日向市立財光寺小学校の校長先生で行われたパネルディスカッションでした。日向市のキャリア教育センターを設立された意義から、取組みの中心にしたお話だったんですが、キャリア教育センターが日向市の子どもたちの未来づくりというのを合言葉に、自立した社会人や職業人として、たくましく生き抜くための基礎を育てる。具体的には、産業も商工会議所、官の商工労働の中心の市長部局、学の小・中・高・教育委員会が連携して職場体験学習や、よのなか教室という名前でのよのなか先生といういろんな職業人の話を聞きながら、社会人講師の派遣事業などをサポートしたり、小中高を見通したキャリア教育を推進していくということでやっておられること、具体的なパネルディスカッションでした。そのパネルディスカッションを聞いていますと、日向市の子どもたちの未来づくりというまさに日向市の未来づくりのために何をしなければいけないかということでございまして、そういう意味では、産業界あるいは、教育界等々、縦軸で、小中高という縦軸を組織的なものを横断的につなげていくために、商工会議所の存在の大きさ商工会議所に事務局を持ってもらうということに最初から非常にこだわられてやられてこられている取組みでありました。</p> <p>非常に印象的でまさに、先ほどお話にありましたように長崎市の教育大綱に非常に通じるものだと思うんです。</p> <p>日向市の商工観光部長が発言されたことですが、「平成27年10月に元気な日向市未来総合戦略を策定しました。その中で基本的な理念として、ふるさとを愛し、日向市の未来を支える人材の育成というものをテーマに掲げ、日向の若者の未来をつくるそういったプロジェクトを重点プロジェクトとして、基本目標に4つの未来総合戦略を掲げたところです。その基本目標の大きな柱の一つに、仕事を作り出す未来総合戦略としてよのなか先生を核としたキャリア教育支援事業を市の施策の1丁目1番地に位置付けました。キャリア教育については、子どもたちの学力と、生きる力を向</p>
----	--

	<p>上させ、子どもたちが地域に喜んで住み続けたいという町にするために、産官学、地域の大人が連携をして日向の大人はみな子どもたちの先生であるをスローガンに、キャリア教育や、よのなか教室を市民運動として推進するということを総合戦略に掲げたところです。」というお話でした。これはもうまさに、一番肝心なところじゃないかなと感じたところです。そういう意味では、先ほどお話がありましたが、産業界からもっともっと情報発信をしながら、おそらく、少し昔と違って、今は、例えば学校教育に産業界から何か手伝ってくれというのではなくて、むしろ、産業界の方が何かやらせてもらえないかということがないかなと思うんですね。そういう意味では、例えば、こういう場もなんですけれども、長崎サミット等々で、今、長崎サミットでは、たぶん大学生やあるいは留学生のキャリア教育に関するところの話が議事録を見ると出てるようなんですけれども、もっと早期のところでのキャリア教育の話等々を取り上げてもらえたらと思います。</p>
市長	<p>日向市のオリジナルじゃないですけども、考え方をしっかり持ってやっているということですね。</p>
委員	<p>日向市は人づくりはまちづくりという意識が非常に強いなという気がしました。</p>
市長	<p>日向市は教育委員会というレベルではなくて、本当まち全体ですね。大事な問題提起を今いただきました。この点は、今日話して何かここで、この方向でと決まってしまうわけではなくて、今日は1回目みたいな形になるんじゃないかと思うんですけれども、いろいろ全体の広い考え方、学校でどうやっていくのか、本来どうあるべきなのか、今日はいろんな議論をできればと思いますので、どんどん活発にご意見をお願いします。</p>
委員	<p>これは国のキャリア教育の資料です。国の方は最初はフリーター対策からスタートしたけれど、それに限るものではないというのを述べられています。</p> <p>これは主に学校の中でのキャリア教育について、第2期教育振興基本計画の中では、幼児期の教育から高等教育まで各段階を通じて学校で体系的・系統的にしようということが書いてあるんですね。1条項だから幼稚園からずっとなんですよ。</p>

私が担当していた学生たちも幼稚園教師になっていますが、「幼稚園でキャリア教育はできますか。」と言うので「できるよ。」と。子どもたちがお店屋さんごっこやおままごとをする時、「仕事上手だね。」と一言。それから、遊んだ後にお片付けをする時にテキパキと早いと「お仕事が早いね。」とすべてを仕事、仕事という意識を持たせていけばできますよ。

主には私たちの対象は義務教育なんですけれども、市の大綱にもそういう人材を積極的に育成を進める。あるいは、15の春に自分の夢に向かってスタートするというのを掲げてますので、この辺がキャリア教育においても必要かなと。

まちづくり基本条例とつながっているのかなと思うんですけれども。

キャリア発達は、先ほどの課長の話でも流れの中では出てきてるんですけども私はどちらかというと時系列で、まずは、キャリア発達という、勤労意識、勤労観、あるいは働く意義について意識づけをする。これは幼稚園からということなんです。そのためにはどのように生きるかということ、人生について幼稚園は無理でも小学校1年から考えてみようよと。

人生という言葉はまず人として生まれる。次は、人として生きること。高校生ぐらいまで一人前になる段階がある。

一番大事なのは人のために生きる。働くというのはそういうことで、結果、給料をもらえたり自分に跳ね返ってくる。まず、人のため、世の中のためだと。4番目には人を生かす。失敗があれば成功もある。いろいろ経験知はあるのでそれが人生だと。小学生から中学生まで、今どの段階を何のために生きているんだという事を、しっかり意識させて、長期は就職かもしれないけど。短期目標では次の学年とか上級生をめざすとか、そういう、今、どこを生きているんだ。そうすると、何のために勉強しているのかということがわかる。「何のために勉強するんですか。」とよく言うんですよ。私は「将来のため。」一つしかないんですよ。説得力があるといいんですけどね。

「世の中のため、人のため」になるために、先ほども職業教育といたらすぐ中学校では進路などがあって。

仕事を何の仕事に就くのかという問いかけではなく、人のためになるため、例えば、人の命を助けるために仕事をしたいと。お医者さんもあれば、消防士さんも警察も看護師さんも介護もそういうのがある。

物づくりであれば、製造業であったり、焼き物であったり、好きな人はそこへ行こう。結構、運転手さんも多いんですけどね。美味しいものを作って人を喜ばせたいとなれば、コックさんとかパティシエとか、ビルや家

	<p>をつくる大工さんでもいいんですけど、結局そうするとそれぞれ、大工さんであれば設計図を書いたり、算数、数学は絶対いるよとか、パティシエであっても、例えば、フランスなど外国をまわって研究すれば英語やフランス語もいる。だから学校で勉強するんだと。それで、実際にキャリア教育としては、人間関係づくりは働く時には必要だから特別活動とか。課題発見・解決能力のためには、各教科がしていることで、総合的な学習の時間とかそれにある程度特化した時間かなと思うんですけども。</p> <p>その中で、仕事とはどういうものなのかということ。私自身はこの5ワークに分けてるんですけど、働く時にはヘッドワークもいる、フットワークもいる、ハートワークもいる、ネットワークもいる、チームワークもいる。これを今から身に付けよう、だから、勉強したり、いろんなことをやるんだというふうに。</p> <p>その5ワークを実際に使ってる話を、実際に働いている人から聞きたいんですよ。新聞記者はどんなふうにしてそれをやっているのか。あるいは、コックさんはどんなふうにしてその5つのワークを使ってるのか。実際に知らない私たちや先生が説明するより説得力があります。日向市の例みたいに。それを受けた形で、ロールプレイングとかグループワークで、5ワークを使った形で考えていけば、職業人としての意識が身についてくるんじゃないのかなと。学校行事もほとんどそうですよね。</p> <p>それから、実際に職業を選ぼうということで、中、高校生は分野別の職種案内とか、先ほど課長が言われたようになかなか学校が仕事を知らない。先ほど挙げた「人のため、世の中のためになる」ためには、長崎ではどんなものがあるのか。長崎の職場というのを提供していただければありがたい。</p> <p>そうすると、人口の流出防止や人口増加、長崎で暮らしていけるような子どもたちにつなげられないかなと考えるとところです。</p> <p>教育課程の中での位置づけということでは、新しい教育課程の中で、地域に開かれた教育課程というのをつくるようになっているので、キャリア教育と関連させると、学校教育課程の中に位置づけることもできるんじゃないかなと考えたところです。</p>
市 長	キャリア教育と職業教育は違うということ。
委 員	そうです。入ってるんですね。広い意味でキャリア教育、もっと広い意味ではキャリア発達だと。

市 長	<p>今、お二人の委員からある意味、議論のたたき台になるようなお話をいただいたんですけども、私も一つたたき台になるようなものを出してみたいと作ってみました。たぶん通じる部分があると思います。</p> <p>自治基本条例、よかまちづくり基本条例というのが、平成 27 年 12 月にできました。その中に書いてあることは、常にみんなメンバーなので長崎のまちはみんなで良くしましようという考え方のもとに、表紙にある参画と協働で、参加してまちづくりを支援しようという基本的な理念条例です。それで、これを子どもたちにもちゃんと伝えていこうと考えています。これは長崎市のまちづくりの基本的な考え方で、時代が変わっても基本的に変わらないので、みなさんがいろんなまちづくりをする時に、よって立つ、帰れる、何か迷った時にはここに帰ればいいという原点みたいなものを示そうということをつくった条例です。市民の皆さんがたくさん参画をして、文章もつくってくれているので、言い方も口調も文章そのものが普通の長崎市の条例とはちょっと違った条例になっています。この条例案をつくって、市民委員の皆さんと一緒に長崎市内の地域を回って説明会を開いていただいて、市民の皆さんのご意見などをいただいたりしながらつくり上げたという条例です。</p> <p>この条例は、今も長崎市のまちの基本になっていることですが、それを子どもたちにもということ、もう一つの少し厚みの青い表紙の冊子「ながさきまちづくりノート」と書いてあるものです。子どもの立場から見た時、どうなのかということで、子どもたちもこれを使って、自分のまちに応用したりしながら、まちづくり基本条例の理念を身に着けていくお手伝いをする資料ということをつくったものです。これは今小学校で配っています。</p> <p>こういう動きがベースにあるというのを踏まえて、表に一枚配布した資料ですが、これはキャリア教育の話で、先ほどのお二人の話にも通じるかと思うんですけど、一番下の長崎市よかまちづくり基本条例というのは長崎市のすべての市民のベースとしてこれがある。その中で教育大綱で示している基本理念が長崎の未来を創るひとづくりということを示している。これもよかまちづくり基本条例と同じようにそのベースの上に乗っかっているような格好になっている。もう少し言い方を変えると、まちや社会を支える当事者を育てるということだろうと思うんです。当事者は一つの大事なキーワードで、評論家とか傍観者が何万人いてもまちは全然良くなりませんが、当事者がどれくらいいるのか、どのくらいの割合いるのかということがすごく大事なポイントです。だから 5000 人の村でも 5000 人が動いたらすごいパワーを持った村ができるわけで、当事者を育てるの</p>
-----	--

はすごく大事なテーマだと思う。その中で、では、どうやって当事者を育てるのかという時に、その上に四角でキャリア教育と囲んだ全体の枠があるんですけど、その下から順に見ていくと、一つはみんながそのまちなどに関心を持っているということです。まちに関心を持つことが大事。関心を持つことで誇りが生まれてくるということ。

それから、リスペクトするという。そのまちを支えている人や、いろんな仕事をしてきている人たちがいて、その人たちに敬意を持つということはすごく大事なことです。そうして、まちの中でリスペクトがたくさん増えるということはすごく大事なことであり、子どもたちがあんなふうになりたいというあこがれを持つことにもなってくる。

それから3つ目に協働する。力を合わせると一人でできないことができるという体験をするということが、達成感や楽しさを味わっていくということを、子どもも大人もこの辺をベースにみんなでこの3つを身に着けていくというまちづくりを進めていくというのがすごく大事なことじゃないか。そうすると、まちを支える当事者が育っていくんじゃないかということで、この3つを進めていった時にもう少し具体的に分けてみると、例えば、まちへの関心を高めるという意味では、まちを知るということをやっていく。それから、まちを支えている仕組みを知ること。議会とか選挙とかもそうですけど、いろんな仕組みを知ること、お金の仕組みもそうですし、それから人を知る。やっている人がいろんな思いを持ってまちを支えていることを知る。それから生活する力をつけていく。実際にいろんな道具の使い方だったり、お金の使い方だったりということをも身に付けていく。それから、職業の力を付けていくということがあったり。それから、力を合わせる体験をする。これまでもボランティア体験をすることで、自分が役に立つという経験、ありがとうと言われる経験をすることはすごく大きな力になるわけで、そういうことを教育の中に組み込んでいくというようなことを考えていくと、実際にまちを知るためにどんなことをやろうかということが、具体的に出てくる。そうすると、具体的取組みがずっとつながっていて、実は、まちを支える当事者を育てる事業をしてるんですということになるんじゃないかという整理もありえるのかなということ。

先ほど委員さんがおっしゃったこと、まちぐるみで取り組むべきであって、どこかの一部門が取り組むべきことではないということにつながっていくのかなと思いました。具体的にこれを満たすにはどういうふうにするのかというところで、委員さんのいろんな見方をさせていただいてますけど、そこに入り込んでいくのかなと。これも一つのたたき台として、あら

<p>委員</p>	<p>削りですけれどもいろんな議論をしてもらえればと思います。</p> <p>ということで、材料が少しずつ出てきたので、ここからフリーディスカッションしていきたいと思います。</p> <p>キャリア教育というのは言い換えると、生き方を考える行為というふうに考えるんですね。昔のようなどんな職業に就くかということではなくて、どう生きるかということを中心とした教育だと考えています。</p> <p>文部科学省や国立教育政策研究所も小学校1年生からできるキャリア教育のカリキュラムを例示しているんですね。キャリア教育の時に絶対外せないのが夢やあこがれを抱くということからスタートするということじゃないかと思うんですね。自分はどんな人になりたいのかというその夢、あこがれを持つためには、子どもたちをまず本物と出会うということ、私はずっと現場にいた時はこだわっていました。一生懸命仕事に誇りを持って働いている大人の人。そういう人に出会うと、どんな仕事も子どもはきつとかっこいいと思うんです。現場にいた頃、7年前だいぶん前の話で恐縮なんですけど、夢やあこがれを抱く教育というのを小学校で研究委託を受けたことがありまして、その時にたくさんのゲストティーチャーをお招きすることができました。できる限り地域で働いておられるいろんな職業の方をお招きして、子どもたちにいろんな話をさせていただいたり、いろいろ体験活動したりということを年間通してやっていきました。お医者さんもいれば、まちの花屋さんもいれば、保育士さんもいれば、お店屋さんも。いろんな方のお話を聞く時に、子どもたちが「働いてて辛いことはなんですか。」とか必ず聞くわけですよ。「こんなことが辛いですよ」と。子どもたちが「では、なぜやめなかったのですか。どうして今もその仕事なんですか。」と必ず聞いていく。そうすると、例えば、お医者さんであれば、「手術をする前はものすごくこわいと、こわくて夜も眠れないこともたくさんある。」と、「でも今も続けているのはなぜですか。」と子どもが聞くと、「手術が成功して患者さんが元気になって、ありがとうございましたってお礼を言われた時に、本当にこの仕事をしててよかったとだからやめられないんです。」と。保育士さんもそうですね。「子どもたちの成長が何よりの力です。」と。花屋さんもそういうお答えをされていました。花をきれいに作ってあげて、お客さんから「ありがとうございました。」って言われた時に、この仕事をやっててよかったというのを言われた。聞いていたらみなさん同じことなんですね。やっぱり、人のために役に立つ、人のために働いて人を幸せにすることが自分の仕事の誇りなんですというふうにとどの仕事の方も言われてて、そこから5年生、6年生の子</p>
-----------	---

<p>委員</p>	<p>どもたちが、深い学びをしていったんですね。やっぱり、本物の方に出会わせて、カッコいいなというような大人の生き方に触れさせることで、自分もこう生きたいというような子どもたちが育つんだなとその研究の委託を受けて、生で子どもたちの姿を見て実感することができました。</p> <p>だから、夢やあこがれを抱かせるために、いろんな人、本物の人に出会うために、その時は職員たちと人材を発掘して地域の人に10人近く来ていただいたんですけど、今の学校教育課長さんの話を聞くと、そういう人材のリストを市教育委員会全体で共有することになってるということで。学校の先生の世界は狭くて、学校の先生が知らない仕事が世の中には山のようにあるので、そういう仕事と子どもたちを会わせるために、今、お話しがあった産業界の商工会議所の方々などいろんな方々と連携しながら、人材バンクのリストを作って、学校が活用しやすいようなシステムをどんどん拡充していくという話だと非常に心強いなと思いました。そういうシステムを学校現場がもっとどんどん活用して、子どもたちに出会わせていく。</p> <p>私が現場にいた時、教員の仕事とは何かというのを考えた時、その子どもたちが抱いた夢を実現できる力を育てるのが学校の仕事だと思っていました。だから、なりたいもの、あこがれたものに学校を卒業した時に本当になれているか、その学力を付けているか、学力というのは勉強だけではなくて、人とつながる力そういったものも学校教育の中で育てていくことでなりたい人になっていく、人とそここの場でつながっていくという力を学校教育が付けていく、それが学校の責任ですよというのをよく教職員には話していました。</p> <p>一人の子どもの一生を考えた時に、キャリア教育というのは大きな柱になると私は思っていますので、今回の議論などを土台にしてよりよいものができる。それに自分も参画できるというのは非常にいいなと思っています。もっと、いろんなものを長崎の子どもたちのためにつくっていきたいと思っています。</p> <p>私の長女が大阪の病院の助産師です。就職をする時にいろんなところを見て回って、その病院の師長さんが、「あなたは長崎出身なの。ではここに勤めるとしたら、ここで力を付けてあなたは長崎で貢献できる人になるのよ。」とおっしゃったそうなんです。その言葉にものすごく感動して、「ここで勤めよう。」と、こんな素敵なことを言う方のいらっしゃる元で力を付けて、そして将来は長崎に帰って貢献する人になるんだと。そこで仕事とは別に違う目標が見つかったという感じで、即、決めて帰って来た</p>
-----------	---

	<p>んです。今はそこで務めさせていただいています。子どもの友達が関東で医師をしていたり、大阪で作業療法をしていたり、いろんな友達がいるんですが、集まったら、「私たち何のために生きてるのかな。ふるさとに貢献する力を付けて、いずれ長崎に帰ろうよ。」という話をしたそうなんです。私は話を聞いた時に、ふるさとを思う気持ちや、長崎の誇りと長崎の良さを小学校、中学生の先生方がちゃんと育ててくださったとすごく嬉しかったんですね。次女も、採用試験を受ける時に、採用が多い福岡を受けるのかと思っていたら、ふるさとの子どもに関わりたくいと長崎にこだわって、今、長崎で教職をさせていただいています。実際、関東の人も3月末で辞めて長崎の病院に帰ってきますし、作業療法士の友達も夫婦で長崎に帰ってきてます。みんなで長崎を盛り上げていこうみたいな。ふるさとという言葉が子どもたちの中から出てきているというのは、時間はかかりますが見守っていただいて、根気強く育てていただいたら、根底には誇り、あこがれいろんなものがちゃんと育っているのかなという気がするんですね。あとは受け皿をつくっていただいて、情報をどんどん発信していただければいいのかなと思います。どんどん長崎を盛り上げようというのが子どもたちの中にも出来てるので、親としては、小学校、中学校の先生方のおかげだと本当に感謝しています。</p>
<p>委員</p>	<p>受け皿の件でよろしいでしょうか。大きい企業だけじゃないと思うんですよね。大浦のガラスをつくる所をテレビで放送を見たことがあるんですが、私の子どもが物作りがすごく好きで、「この仕事を知っていればこの仕事に就いたんだけどね。」と言っていました。親もそういう知識が全然なかったんですよ。品物は知っていてもどこで作っているかは知らない。そういう意味では、ちいさな一人職場であっても、蚊焼の包丁とかそういうのもリストに上がってくると、そういう子どもがいたりすると思いますね。</p>
<p>市長 事務局 (教育委員会) 事務局 (教育委員会)</p>	<p>今の、ガラスのビードロとか蚊焼の鍛冶屋さんというのはリストに入ってますか。</p> <p>現在は入っていません。</p> <p>ただ、学校としては三和の方が知っているなので、そういうのを吸い上げてこちらでまとめるという作業はしていかなければいけないですね。</p> <p>伝統の工芸工業についても、今まで学校がコンタクトを取っていないよ</p>

事務局 (教育委員会)	<p>うなところも開発しなければいけないのかなと思います。</p> <p>子どもたちは職業をまだよく知らなくて、自分が知ってる職業だけで職場体験を選んでいる。広がりがないかなと思います。</p>
市長	<p>親もそういう有名な大企業とかを勧めがちなんですよ。子どもは知らないから親の言うことを聞いたりする。</p>
委員	<p>日向市のパネルディスカッションも、大企業だけではないということ、違うところに喜びがあるとかそういうことを教えていくというのもキャリア教育の大切なことだという話がありました。</p>
教育長	<p>日向市はまさに人の流出が多かったから、まず人の流出を止めるために始めたけれども、結局、これは人づくりにいいということになって、だからいろんな小さな企業の優秀な企業などをいかに紹介して子どもたちに会わせるかというようなことも。</p> <p>だからそのセンターには先生が3人ぐらいいらっしゃる。小学校の先生、中学校の先生がそれぞれに発達段階に合わせて人を送っている。</p>
委員	<p>先ほど委員がおっしゃった学校の先生の世界は狭くて知らないからということ。日向市のキャリア教育センターでは、一つのルールがあって、学校の先生がキャリア教育センターが推薦した「よのなか先生」のところに必ず出向いて行って願います。そうすることによって、まず先生が職場を見たり、実際に仕事を見たり、そこで感じた事を先生が子どもたちに伝えるということも大切なことだと。</p>
市長	<p>先生そのものが、そういうものに触れる機会がない。先ほどの蚊焼の鍛冶屋さんは教育力もものすごく高いですよ。自分たちで話すのも、実践させるのも。体験を積み重ねているからものすごくレベルが高いです。全国に出しても恥ずかしくないくらい。そういう人たちがいるんですよ。いろんな業種でありますよね。</p>
教育長	<p>結構、地域で有名で、その地域でいろいろしたりするんですけど、それをなんとかリストアップして、もっと広げてご紹介できればいいなど。各地域では、学校は地域の人たちを呼んでいるので、もっと広く知らせたい人もたくさんいるんですけどね。</p>

委 員	<p>子どもたちが職業体験的なことができるキッズニアがありますよね。そういうのを長崎市内でキッズニアさるく的なことができないのかなと思います。さるく見聞館とかそういうところでも、ちょっと似たような形のものでできているわけですから。</p>
市 長	<p>そういう日を設けて、子どもたちがいろんなことをしたりとか。学年ごとに何をするとか位置付けて。しかし、系統づけてしないと見つきたいになりそうですね。</p> <p>大企業じゃなくても近くに素晴らしい人たちがいる。「ただの魚屋のおじさんって思ってたら、おじさんってすごいんだね。」とか。そのことを知ることが大事ですよ。</p> <p>めざしてるまちの姿として、まちの中にリスペクトする気持ちというのをたくさん増やしていく。お互いがお互いをリスペクトするというのが続くとそれはたぶん平和にもつながっていくと思います。そうすると、まちというものはものすごく面白くなって、「私はできないけどあのおじさんのところに行ってみたらたぶん何か知ってるよ。」と話すような感じにすると、世の中にすごい人たちがいっぱいいるとわかる。そういうのを意識的に学校の中で増やしたいですよ。</p> <p>先ほど、まちに関心を持つということで長崎LOVERSがありましたけど、説明をお願いします。</p>
事 務 局 (市長部局)	<p>昨年10月から開始をした取組みで、本日、少しグッズも含めて配布をさせていただいたところです。</p> <p>このLOVERSプロジェクトは、市民の方一人ひとりが持つ長崎のここが好きという声をこの〇〇LOVERSの、〇〇の中に入れていただいて、形として発信するというので、長崎はいろんな多彩な魅力がありますので、そういった市民の方々が日常感じられている魅力を認識していただいて、長崎に対する誇り、愛着、いわゆるシビックプライドを持っていただくことにつなげる。そしてそれを推進するとともに、それらの魅力で新しい長崎ファンをつくって、市への新たな来訪者を増やし、ひいては滞在期間の延長などによる消費拡大につなげることを目的としたものです。</p> <p>実際にスタートしてから、市民、企業、団体の皆様方とも協働しながら取組みを進めているところですが、下の方に少し写真を載せて具体例をいくつか記載させていただいています。</p> <p>左上の方から地域貢献、右上の方で店舗などの企画などを記載していますが、今日、少し配付をさせていただいたバッジやポスター、宣言ボード</p>

	<p>といった関連グッズを活用して、資料に記載の企業の方などがそれぞれの店舗の装飾をしていただいたり、そういった中で地域の魅力の好きを発信していただいたり、自分の好きなものなどを書いたバッジなどをお客様との窓口でのコミュニケーションツールとして活用していただいています。下の方ですが、ロゴを活用した商品開発とそれを販売していただくという動きも出ています。中ほどには、教育現場ということで、長崎のよさを10万人に伝えようと授業で活用していただく取組みで、これは長崎大学附属小学校で実際に2月21日に公開授業が行われたところです。市立の小中学校の方でも、まずあじさいノートの中で活用するような予定も教育委員会の方でされております。今後も教育委員会と企画財政部と連携しながら、長崎に対する愛着等の醸成につなげていくような取組みを行っていきたいと考えているところです。</p> <p>スタートから約5か月程度経ちますが、現在の長崎LOVERSの広がりそれぞれの取組みの状況を、いわゆるシビックプライドの醸成という観点から資料として提出させていただきました。</p>
市 長	<p>長崎LOVERSの話は、実際に学校でも使ってみた学校もあるということで、みんなが共通体験として長崎のことを共通の何かを言葉を使って、バッジを使ったりというのは、面白いやり方ではあるのかな。学校ごとに違うではなくて、これだけは長崎の子どもたちはみんな書くんだよというのがあると面白いのかなと、そういう提案の一つと。</p>
市 長	<p>では、キャリア教育の話の1回目ということで、いろいろ自由な意見があったんですけど、次の機会に少し今日の意見などを踏まえて、長崎の教育大綱をはじめとする全体の中でどう位置付けていくのかという整理と、それから、委員さんから話があった長崎サミットや経済界、大学を含めた学校などに働きかけていくというやり方もあるので、どういうやり方で進めていくことができるのか、ということについては全く新しい別のたたき台を出してもらって、それを基にもう1回議論をして、できればもう少し具体的に、来年度に向けてこんなことをもっとみんなでしたらよいか、やれることから手をつけていきましょうとか、では次のサミットに提案してみましようとか、そういうことを議論できるような準備をしていただければと思います。次につなぐということによろしいでしょうか。</p>
市 長	<p>(3) その他ですが、何でも結構ですけれども、総合教育会議の進め方そのものだったり、次に新しいテーマについてなど何かございますか。</p>

教 育 長	<p>せっかくこういう会議がありますので、もう少し早め、早めに、事務局とも話をしてるんですけど、施策として組み立てられるとか、何かにつながられるような動きになるためにも、もう少し早めに、事前に教育委員会内部でも揉んでみたりしながらディスカッションができればいいなと思います。今日はバタバタした感がありましたけれども、みなさんの思いが聞けたので、今でもできることもありますし。今ちょうど学習指導要領が大きく変わる中、長崎の教育も大きく変わってくる。根底にはまさにキャリア教育があり教育が社会につながっていく。点数を上げるための勉強ではなくて、自分たちが役に立つことを勉強している。社会と関係を持った教育活動をしようというのが大きなテーマになっているのはそこだと思うんですね。</p> <p>今日のテーマはキャリア教育という言葉ですけども、教育の根底にあるような気がします。ここは議論しながら、いいものを吸収しながら各方面に使えるのかなという気がします。</p>
市 長	<p>キャリア教育という言葉に縛られるような面があるので、長崎ではキャリア教育と呼ばずに、先ほどの日向市の「よのなか教室」という名称のようにそういうのもいいと思うんですね。</p> <p>子どもたちに何をどう伝えていこうとしているのか、どんなまちにしようとしているのか、子どもたちにどんな力になってもらおうと思っているのかということが大事であって、キャリア教育と言えるかどうか、それがキャリア教育とはちょっと違うんじゃないですかと言われたら、それはそれでいいですと、長崎市はこれをやりたいと思っていますということだと思います。</p>
教 育 長	<p>キャリア教育はずっとあった言葉で、特に学校の先生たちには固定観念があるので、逆に違う言葉の方がいいのかも知れませんね。</p>
委 員	<p>企業を含めた地域社会と子どもたちの Win-Win の関係を構築していくためのシステムづくりみたいなイメージが一番自分にははっきりしたんですけどね。</p>
市 長	<p>企業もそうだし、地域もそうですね。地域を支える人たちも。</p> <p>子どもの頃にボランティア体験をするのは、役に立ったと思うだけでも小学生にはすごくいい体験になるんじゃないでしょうかね。次は何か自分もやれるんじゃないかと。憧れと同じような体験になるのかもしれないで</p>

<p>委員</p>	<p>す。そういうのを長崎方式で作り上げるということですよ。</p> <p>広島県三原市のお菓子会社が小学4、5年生をインターンシップで受け入れるという。お菓子の商品作りに子どもたちの意見をいろいろやり取りをしている。そういう子どもたちが将来お菓子のメーカーに勤める割合がどれくらいか非常に興味があります。</p>
<p>市長</p>	<p>地域に行くと、子どもをお客さんにしている地域と、子どもをスタッフにしている地域があります。お客さんにするところもたくさんあるんですよ。スタッフにすると子どもたちはちゃんと働くんですよ。そこは大人がどう考えているのかということですね。</p> <p>その辺の整理を、今教育委員会がしてくれている4ページの整理では言い尽くせてないんじゃないかなと思うんですね。その辺の整理をして、今から何をしたいかというたたき台をつくってもらいたいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>事務局の方から何かありませんか。なければ、平成30年度4月以降の開催については、あらためて連絡をするということで、できるだけ実のある総合教育会議にして、事業などに反映できるような開催をしていきたいと思いますのでご協力をお願いします。</p> <p>今日はどうもありがとうございました。</p> <p>【16：55 閉会】</p>